

合掌造り民家園野外博物館エリアと「であい橋」

荻町の歴史的集落を車で訪れる人たちのほとんどは、庄川の西側に到着し、そこで車を駐めるよう求められ、それから歩いて橋を渡り村の中心まで進みます。大きな駐車場の側には、伝統的な合掌造りを模した茅葺屋根の観光情報センター「であいの館」があります。近くのギフトショップでは、白川の地域から集められた土産物や地域特産の食べ物が売られています。これらの建物の後ろには合掌造り民家園野外博物館があり、そこには合掌造りの農家や蔵、納屋など25_軒の建物が移築され、保存・展示されています。

駐車場と博物館のゾーンは、1993年に庄川に建設された歩行者用の吊り橋「であい橋」で荻町の中心部と繋がっています。集落への入口の一つとして機能しているこの橋は、周囲に溶け込むようデザインされているため、比較的幅が狭く、塗装されていません。この建造物の控えめなスタイルと、通りに車を入れないことで伝統的な街並みを守るという役割が、日本土木技師協会に認められ、同会は2003年であい橋にデザイン賞を授与しました。訪れる人たちはこの橋を渡りながら、白川("white river")の名前の由来である、静かで少し濁った川の水を見下ろすことができます。橋には、特に秋、庄川沿いの木の葉が紅葉した後に、写真家たちが集まります。